

T H E Y A K U J I N I P P O

# 薬事日報 薬学生新聞

発行:株式会社薬事日報社  
 東京本社 〒101-8648  
 東京都千代田区神田和泉町1  
 TEL.03-3862-2141  
 FAX.03-5821-8757  
 大阪支社 〒541-0045  
 大阪市中央区道修町2-1-10  
 TEL.06-6203-4191  
 FAX.06-6233-3681  
 http://www.yakuji.co.jp/  
 http://ynps.yakuji.co.jp/

## 日本薬局学会学術総会

# 新しい薬局の形を発信

第9回「日本薬局学会学術総会」が「薬局機能を高める・みらいへの展望—問われる私たちの進化と真価」をテーマに、9月26、27の両日、横浜市のパシフィコ横浜で開催された(学術総会会長は大野利美知氏:ファーマライズホールディングス社長)。厚生労働省医

政局長(当時、現在は厚生労働事務次官)の二川一男氏による基調講演や、めぐみ在宅クリニック院長の小澤竹俊氏の特別講演、シンポジウム、未来セミナー、ワークショップなど充実したプログラムが実施され、次の時代に向けての新しい薬局の形を力強く発信した。



中村NPhA会長

開会式の中であいさつに立った日本保険薬局協会(NPhA)の中村勝会長(クオール社長)は、日本薬局学会の今後に関して言及。「薬剤師を中心としたNPhA内の学会から、薬学部関係者、医師や看護師なども含めて広い範

囲の学会へ拡大していくことが必要ではないか」との考えを示した。その上で、「京都で開催される来年の第10回学術総会を機に、できるだけ開かれた学会に変化させていきたい」と語った。来賓としてあいさつした東京薬科大

学今西信幸理事長は、「薬学教育が4年制から6年制に変わり、これまでの教育、研究に加え、臨床強化が6年制薬学部の使命となった」と指摘。「そうした観点から、日本薬局学会は貴重な臨床薬学の間。この学会で学び、それらを広めることによって薬剤師の基本

的な地位が変わってくると思う」とし、「この学会をさらに発展させ、薬剤師の臨床薬学の拠点にすべき」と述べた。

シンポジウム「認知症患者・家族を支えるための地域での取り組み・挑戦」では、認知症早期発見に向けた薬局の役割などが議論された。

その中で岩田淳氏(東京大学神経内科学講師)は専門医の立場から、認知症診療で薬局薬剤師に期待することとして、▷認知症の人の拾い上げ▷認知症患者の内服薬の確認▷診断後の日常生活の支援—を挙げた。特に、初期の認知症を薬局で見つけるため、頻繁に薬局する高齢者と雑談をしてニュース、日付、曜日を質問したり、同じ処方箋を持って薬局していないか確認することをポイントとして指摘した。

## 学会ダイジェスト

滋賀県薬剤師会は2014年度から2年間限定の「薬剤師見える化特別委員会」を新設し、薬剤師の役割や業務内容を社会に認知してもらう活動に力を入れている。その一環として薬剤師業務のエビデンス構築を推進。残薬回収事業を実施し、医師に連絡して処方調整するなど薬局薬剤師の介入によって、回収した残薬の74%を有効活用できることを明らかにした。15年度も参加薬局数を増やして同様の事業を行い、その成果を数値化する計画だ。



過去最多の2550人が参加した近畿薬剤師学術大会

## 薬剤師の見える化推進

### 滋賀県薬が近畿薬剤師学術大会で報告

8月29、30日に神戸市で開かれた近畿薬剤師学術大会で滋賀県薬常務理事の永井智宏氏(かも調剤薬局)が事業の概要や成果を発表した。

残薬の回収事業は「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」の一環として実施。スーパーのレジ袋タイプの「おくすり持参袋」と啓蒙用のチラシを作成し、会員薬局に送付した。14年12月から15年2月までの3カ月間、この袋を活用して患者や家族、薬剤師自身を含む医療・介護スタッフを通じて残薬を回収した。薬剤師は回収した残薬の中から再利用可能なものがあれば医師に連絡し、処方日数の削減につなげた。

滋賀県薬は、残薬の商品名や数量、残薬の原因、処理方法、医師への対応などを容易に入力できる残薬確認システムを開発し、各薬局に入力してもらった。そのデータなどを解析し、残薬

回収事業の成果の数値化に取り組んだ。

3カ月間で91薬局が参加し、520人から残薬を回収した。その金額は合計251万8583円。残薬回収後の有効活用率は74%だった。永井氏は「薬剤師の介入によって残薬を有効に活用でき、医療費削減に貢献できた」と強調。滋賀県の全薬局がこの活動を行うと仮定すると3カ月間で約1030万円、全国規模では約11億6800万円の医療費削減効果があると語った。

15年度も参加薬局を増やして残薬回収事業を実施する計画だ。「n数を増やし、どんな薬、どんな薬効の薬が残薬になりやすいのかを分析したい」と永井氏は強調。看護・介護職への残薬回収の啓蒙にも力を入れたとした。

#### 〈本号の紙面〉

- てんかん治療における薬剤師……4
- 第101回国試に向けて……9
- FIP会議レポート……12

**89314**  
**薬剤師になれ!**  
**毎週日曜一斉テスト開催中**  
 サイトリニューアル!スマホでのご利用がとっても便利になりました  
**ご登録・ご利用完全無料**  
**be89314** **検索**

**薬剤師国家試験過去問題集2015**  
 iPhone/Android  
 過去10年間に出题された全2820問を収録!  
**過去問題集アプリ好評配信中**  
**第100回過去問題追加!**  
**薬剤師国家試験対策.com**

**株式会社プチファーマシスト** **2016年度新卒募集中**  
**売上伸び率全国No.1** ※DRUG magazine 2015年7月号  
 関西を中心に **オレンジ・元気薬局を展開**  
**オレンジ薬局** **検索**  
 わたしたちプチファーマシストは薬剤師国家試験対策.comのownerです